

ヒヤリング実施要領（案） (土木関係建設コンサルタント業務の場合)

- ・ヒヤリング対象者は、総合評価型プロポーザルの場合には予定管理技術者又は予定担当技術者とし、技術者評価型プロポーザルの場合には予定管理技術者とする。
- ・ヒヤリングでは、技術提案書に記載された経歴、業務実績、特定テーマに関する技術提案内容、あるいは取り組み姿勢（業務の着目点や実施方針）に関する質疑応答を行う。
- ・ヒヤリングでは、以下の点について評価を行う。

予定管理技術者の業務経歴および業務実績に関する質疑応答を行い、書類審査による能力評価点の確認を行う。

総合評価型プロポーザル方式の場合には、特定テーマに関する技術提案に関する質疑応答を行い、技術提案の的確性を判断するとともに、業務への取り組み意欲を評価する。

技術者評価型プロポーザル方式の場合には、取り組み姿勢（業務の着目点や実施方針）に関する質疑応答を行い、業務への取り組み意欲を評価する。

質疑応答を通じて、打ち合わせ協議等に必要なコミュニケーション能力を有しているか評価する。

業務に関する質問を受け付け、その内容から積極性を評価しても良い。

ヒヤリング評価ポイントの例（：加点要素　　：減点要素）

専門技術力の確認（経歴・実績・知識）

担当した業務（あるいは業務の一部分）において採用した設計の方針や手法、問題点と解決策などがきちんと説明でき、中心的・主体的に業務に携わったことが伺える。

関連する分野の業務経験や知識が豊富である。

担当した業務（あるいは業務の一部分）について十分な回答ができず、中心的・主体的に業務に携わっていない。

取り組み姿勢の評価（総合評価型プロポーザル）

当該業務を実施するまでの課題や問題点が把握されている。

特定テーマに対する技術的な裏付けが明確であり、積極的な補足説明がある。

疑問点について積極的な質問がある。

当該業務における課題や問題点に関する認識が足りない。

特定テーマに対する技術提案の説明が曖昧、または不明確。

取り組み姿勢の評価（技術者評価型プロポーザル）

当該業務を実施するまでの課題や問題点が把握されている。

実施方針が明確である。

疑問点について積極的な質問がある。

当該業務における課題や問題点に関する認識が足りない。

実施方針が曖昧。

コミュニケーション力の評価

質問に対する回答が的確で簡潔。

質問に対する回答が的はずれで冗長。